

## 3月は「識字率向上月間・世界ローターアクト週間」です

国際ロータリー第2660地区

ガバナー **横山 守雄**

日本のロータリアンにとって、「識字率向上」のための奉仕の機会は、自分達の地域社会ではなかなか見出せませんが、海外に出向きますと、驚く様なことが実際にあります。例えば、大阪中央RCは、ネパールの農村地帯女性の大半が、読み書きが出来ないということが分かり、教科書を配布するWCSプロジェクトに取組んだことがあります。

その際に、世界中には読み書きが出来ない人が10億人以上いるということも分かりました。非識字は貧困をもたらし、貧困は戦争や地域紛争をもたらします。世界が平和でなければ、日本は平和国家として発展し続けることができません。その貧困の最大の要因となっているのが、非識字の人々がこの世界には、まだあまりにも多いということです。貧困から脱却するためには、先ず文字の読み書きが出来るようになることが、自立の第一歩になります。

ネパールの農村の女性たちが、読み書きが出来るようになれば、彼女たちは学んだことを子供たちへ教え、子供たちは将来いろいろな職を手に入れることが出来るようになることでしょう。「識字率向上」は国際ロータリーの長年の重点活動項目の一つで

ありますが、それは特に「子供たちへ光が当たる」活動でもあります。私たち日本のロータリアンはこの月間にあたり、改めて国際社会の一員として「識字率向上」の活動について考え、私たちの識字教育プロジェクトについての様々な「夢をかたちに」したいものです。

次世代を担って行く若人たちの集まりであるローターアクトクラブは、世界全体で7千以上のクラブ、17万人を超える会員を擁していますが、近年日本ではクラブ数、会員数ともに、RC同様に減少傾向にあります。ローターアクターには年齢制限があり、RACの維持と発展という面で阻害要因になっています。またせっかくRACを卒業しても、日本ではRCへの入会がコスト的に非常に難しいという問題があります。一方、日本のRCは会員がここ10数年の間に30%ほど減少し、年々高齢化しているというRCプロパーの問題があります。日本でこの様なロータリーの構造的変化が起きている中で、RAC, IAC, YEといった重要な青少年奉仕活動を、RCの現状と如何に調和させ、全体の活動を活性化していくか、私たちはこの機会に、各クラブでよく検討してみる必要があります。